

卷末資料

1. 多賀城跡から出土した植物遺体	47
(1) 木材分析	47
(2) 花粉分析	49
2. 多賀城市の植生	52
(1) 市川地区の植物	52
(2) 加瀬沼周辺の植物	53
(3) 多賀城廃寺周辺の植物	56
3. 多賀城跡の主な緑地マップと主要樹種の分布	58
4. 万葉集の植物	59
(1) 木本類	59
(2) タケ類	60
(3) 草本類	61
(4) シダ・コケ類、菌類	62

1. 多賀城跡から出土した植物遺体

発掘調査により出土した木材や採取した土壌中の花粉などから当時の環境を復元するための分析も実施し、年報などに掲載している。以下では、その分析結果のうち古代に関する部分を中心に要旨を掲載する。

(1) 木材分析

① 南辺東地区 外郭築地塀に伴う盛土基礎のしがらみと自然木(第34次調査)(小倉1980)

分析者：小倉英男（宮城学院高校）

年代：盛土基礎は多賀城第Ⅱ期以前に構築された築地塀に伴う

北区10・11層、南区10層は盛土基礎構築前の旧表土及びその直下層

樹種	SA1113		SA1126	SA1127	北区11層	北区10層		南区11層
	杭	樹枝	杭	杭	自然立株	自然倒木	小枝	自然立株
クリ			2	1		1		
コナラ属	1	1		1				
ハンノキ属	1				2	1	1	3
モミ			1					

② 作貫地区 第Ⅰ期外郭南辺区画施設跡材木列と基礎地業(いかだ地業)(第38次調査)

(多賀城跡調査研究所 1982)

分析者：パリノ・サーヴェイ株式会社

年代：多賀城第Ⅰ期

樹種	S A 1260 材木列	S A 1263 材木列	S X 1261 基礎地業
クリ	4	1	4
クヌギ			5
ナラ類			1 4
ブナ属			2
ナナカマド属	2	1	
ウルシノキ属	1		
シデ属		2	2
カエデ属		2	2
ハコヤナギ属		1	
ハンノキ属			2
トネリコ属			2
アワブキ属			2
広葉樹	1		

③ 政庁南面地区（鴻の池地区） 第Ⅰ期外郭南辺区画施設跡基礎地業（筏状地業）と
木製品類（第86次調査） （鈴木 2017）

分析者：鈴木三男（東北大学名誉教授）

年代：多賀城第Ⅰ期

樹種	土場に埋め込まれた木材							はつり材			付け木	挽き物	割物	曲物	折敷？	とめ皮	杓文字	木筒	齧串	付札状木製品	下駄	横腿	差押板	総計	
	角材	丸材	杭	丸木	棒材	板材	材木	合計	南Ⅱ層	北Ⅲ層															合計
モミ属	1	1				3	5	19	67	86	1			6										98	
アカマツ		2				1	3		1	1	18													3	25
二葉松類											1														1
ヒノギ						1	1							1	1			1		1					5
サワラ						1	1				1							1		1					5
スギ		1					1	78		78	1			2			1					1			84
モクレン属												1													1
アワブキ							1	1	1	1	2														3
イヌエンジュ										2	2														2
ナナカマド属										1	1														1
ヤマザクラ						1	1	2																	2
サクラ属 樹皮														2		1									3
ケヤキ				1				1					6		2								1		10
クリ			1				3	4	1	4	5														9
ブナ属										1	1														1
クヌギ節							1	1		5	5														6
コナラ節				2			1	3	1	12	13												1		17
クマシデ節			1					1																	1
イヌシデ節			1							2	2														2
カエデ属						1	1	3		2	2														5
トチノキ							1	1						1											2
キハダ						1		1																	1
リウツギ										1	1														1
トネリコ属							1	1																	1
コシアブラ										1	1														1
総計	1	5	4	1	1	8	10	30	100	100	200	22	7	1	15	1	1	1	1	1	1	1	2	3	287

・筏状地業には、モミ（属）、クリ、アカマツ、ナラ類（コナラ節）、カエデ属、ヤマザクラなど多くの樹種があり、手近にあったものを使用したように見える

・基礎地業に敷き詰められたはつり材には、アワブキ、イヌエンジュ、ナナカマド属、ノリウツギ、コシアブラなど多賀城周辺に生えていた「雑木」の枝や原木を柱材に加工する過程で出た「廃物」であるモミ属、スギ、ナラ、クリ、クヌギが多い。

④ 東門・大畑地区 SE2101B井戸跡井戸枠（第60次調査） （内藤 1992）

分析者：内藤俊彦（東北大学理学部附属植物園）

年代：9世紀前半（多賀城第Ⅲ期）

樹種	横板	縦板	隅柱
クリ	2	1	1
カヤ	2		
スギ	1		

(2) 花粉分析

① 南辺東地区 東辺外郭施設西側基本層位(第11次調査) (安田 1973)

分析者：安田喜憲（東北大学大学院理学研究科）

分析資料：地表から地表下 230cm の泥炭層まで柱状サンプルを採取し分析

分析結果：

分析により時期区分されたⅠ～Ⅲの Zone のうち、Zone Ⅰが古代～現代。

Zone Ⅰは Subzone 1～4 に細分され、Subzone 1 は現代に近い。

- ・ Zone Ⅱ（多賀城創建以前） ブナ属、コナラ属、ハンノキ属
- ・ Zone Ⅰ Subzone 4 コナラ属、ハンノキ属が減少 マツ属、スギ属が増加
荒地に生育するゼンマイ属、シダが急増
- ・ " Subzone 3 栽培種と想定されるイネ科の他、ヨモギ属、カヤツリグサ科、
セリ科、タデ属、ガマ科、シダ、ナデシコ科などが出現
ハンノキ属、クルミ属、コナラ属が減少
マツ属、スギ属、クリ属が増加
- ・ " Subzone 2 コナラ属、ブナ属が増加するが、徐々に減少しマツ属、スギ
属が漸増

多賀城周辺の沖積平野にはハンノキを主体とする林が広がっていたが、7世紀後半以降農耕活動により切り開かれ草本類、羊歯類が生息地を拡大させた。そして多賀城の造営などにより丘陵のイヌブナあるいはブナ林が切り開かれクリ、コナラ、アカマツなどの二次林が形成された。

② 南辺東地区 外郭築地塀に伴う盛土基礎北側自然層位(第34次調査) (安田 1980)

分析者：安田喜憲（広島大学）

分析資料：基本層位 1～12 層のうち、2～6 層を分析

2～5 層 多賀城第Ⅳ期

6～9 層 多賀城第Ⅲ期

分析結果：

6層下部の上下で環境が大きく変化

- ・ 下位 調査区付近には富栄養化した池沼が存在し、周辺にはハンノキ属、モチノキ属、ゼンマイ属などが生息する湿原
丘陵部にはブナ属、コナラ属、ニレ属、ケヤキ属、クマシデ属、クルミ属などの落葉広葉樹とスギ属、マツ属などの針葉樹、僅かなアカガシ属などの常緑広葉樹
- ・ 上位 人里周辺に生息する草本類が急増 イネ科、セリ科、ヨモギ属、オナモミ属、ギシギシ属、タデ属、オオバコ属、アカザ科、ミソハギ属、アブラナ科など
湿地に生育する草本も増加 ガマ科、カヤツリグサ科、イヌノヒゲ属など

・人類の進出により、周辺のハンノキ林が伐採され、周囲にはイネ科、ヨモギ属、オオバコ属、セリ科、タデ属などの生育する草原が拡大。

池沼は水位が低下し、ガマ属、カヤツリグサ科、イヌノヒゲ属などの生育する湿地化。

丘陵部は、ハンノキ属、モチノキ属以外では樹木構成は変わらず、ケヤキ属、スギ属が増加するが、森林の密度は減少。

以上の変化は、多賀城の築造にともなう一連の活動にかかわるものと推定される。

③ 政庁南面地区 鴻の池地区 (第 61 次調査)

(守田 1992)

分析者：守田益宗 (東北生活文化大学)

分析資料：基本層位 1～15 層のうち、6～8、10～12、15 層を分析

6～8 層 灰白色火山灰降下～12 世紀中頃以降

12 層 9 世紀中頃

15 層 多賀城創建以前

分析結果：

12 層以前と以後で環境が大きく変化

・15 層 湿地とハンノキ林 多賀城創建前

高木落葉広葉樹のブナ科 (ブナ・イヌブナ)、コナラ属 (コナラ・ミズナラ)、クマシデ属 (イヌシデ・アカシデ)、ニレ属ーケヤキ属 (ハルニレ・ケヤキ) が多く、草本が少ない。マツ属 (アカマツ)、モミ属 (モミ)、スギ属 (スギ) の針葉樹も僅かにあり。草本は、イネ科、カヤツリグサ科、アヤメ科が多い。

・12 層以後 高木・低木が急減し草本が極めて多くなる。

高木のマツ属、ブナ、イヌブナ、他のクマシデ属が増加し、コナラ属、イヌシデは減少。低木は少なく、草本では湿地性のオモダカ属、コナギ属と比較的乾燥を好むアカザーヒユ科、ミチヤナギ属、ヨモギ属の他、オオバコ属やソバ属も認められる。

・10 層以後 アカマツ二次林とモミが増加。イネ科植物を主とする湿地が存在したが、再び比較的乾燥した拉致が拡大。

マツ属がさらに増加し、モミ属、スギ属も増加、落葉広葉樹が減少。イネ科は多いがオモダカ属、コナギ属、ミチヤナギ属、オオバコ属は微量となり、その後イネ科も減少し、アカザーヒユ科が増加。

12 層以降の植生の変化は、多賀城の造営に伴う人間活動に関連する可能性が高い。

④ 政庁南面地区 鴻の池地区 (第 86 次調査)

(吉田・鈴木 2017)

分析者：吉田明弘 (鹿児島大学)・鈴木三男 (東北大学名誉教授)

分析資料：十和田 a 火山灰層から 3m 下の泥炭層まで 14 サンプルを採取し分析

分析結果：

・TGJ-1 帯期 (約 1,250～700cal AD) 丘陵地にはコナラ、ミズナラ、クリなどの冷温帯

性落葉広葉樹林、当地区にはハンノキ湿地林やカヤツリグサ科の草原が広がる。

- ・TGJ-2 帯期（約 700～780ca1AD） 丘陵地の森林伐採によりヨモギ属やオオバコ属などの陽地性の草本植生が広がり、低地や谷筋の湿潤な場所にハンノキ湿地林が形成。水田耕作やソバ栽培などの大規模な農耕が開始。
- ・TGJ-3 帯期（約 780～830ca1AD） 丘陵地の森林伐採が継続し、植被が著しく低下して土壤浸食が進行するとともに、薄い土壤環境に適したアカマツの二次林が形成。クワ科ーアサ科が出現するが、詳細な栽培植物の特定には至らず。
- ・TGJ-4 帯期（約 830～915ca1AD） 森林伐採など人為的干渉が緩和され、コナラ、ミズナラ、ブナの落葉広葉樹の二次林が形成。

多賀城造営により、丘陵地の冷温帯落葉広葉樹の自然林が伐採されて陽地性の乾燥環境を好む草本植生となり、森林伐採の進行により土壤浸食が増大してアカマツ二次林が成立するものの、その後の伐採緩和によりブナやコナラ亜属の二次林へと変化。

引用文献

- 小倉英男(1980) 多賀城跡出土の木材について 宮城県多賀城跡調査研究所年報 1979
- 鈴木三男(2017) 多賀城跡第 86 次調査(鴻ノ池地区)で出土した木材の樹種 宮城県多賀城跡調査研究所年報 2016
- 内藤俊彦(1992) 井戸枠に用いられた材について 宮城県多賀城跡調査研究所年報 1991
- 宮城県多賀城跡調査研究所(1982) 付 第 38 次調査出土木材の樹種鑑定 宮城県多賀城跡調査研究所年報 1981
- 守田益宗(1992) 多賀城跡第 61 次調査(鴻の池地区)の花分析 宮城県多賀城跡調査研究所年報 1991
- 安田喜憲(1973) 宮城県多賀城址の泥炭の花分析的研究—特に古代人による森林破壊について— 第四紀研究 12, 49-59
- 安田喜憲(1980) 宮城県多賀城跡の泥土の花分析〔Ⅱ〕 宮城県多賀城跡調査研究所年報 1979
- 吉田明弘・鈴木三男(2017) 第 86 次調査区周辺(鴻ノ池)の花分析 宮城県多賀城跡調査研究所年報 2016

2. 多賀城市の植生

多賀城市の現在の植生について多賀城市史第1巻に記載がある。多賀城跡の市川地区および北部の加瀬沼周辺と多賀城廃寺跡の植生の一覧表を以下に記す。

(1) 市川地区の植物

×印は帰化植物・園芸品種

雑木林の植物

ブナ科	コナラ	クリ	
エゴノキ科	エゴノキ		
クルミ科	クルミ		
クロウメモドキ科	ケンポナシ		
ニレ科	ケヤキ		
イチイ科	カヤ		
スイカズラ科	ニワトコ		
ウルシ科	ヌルデ		
ニシキギ科	コマユミ		
モクセイ科	イボタノキ	ホソバアオダモ	
シソ科	ムラサキシキブ		
カバノキ科	ハシバミ	イヌシデ	
ツバキ科	ヤブツバキ		
クワ科	ヤマグワ		
マメ科	ネムノキ		
ミカン科	サンショウ		

市道市川線に沿って五万崎から多賀城政庁跡さらに陸奥総社宮までの屋敷林

ツバキ科	ヤブツバキ		
ニレ科	ケヤキ	エノキ	
クルミ科	オニグルミ		
シソ科	キリ		
イチイ科	カヤ		
ブナ科	アカガシ	コナラ	クリ
クロウメモドキ科	ケンポナシ		
カバノキ科	イヌシデ		
ヒノキ科	スギ		

民家の生垣

ツバキ科	×チャノキ	ヤブツバキ	
イネ科	ヤダケ	ハチク	オカメザサ
ニシキギ科	マサキ		

アオキ科	アオキ		
スイカズラ科	ニワトコ	スイカズラ	ガマズミ
マメ科	フジ		
アケビ科	アケビ	ミツバアケビ	
シソ科	ムラサキシキブ		
クロウメモドキ科	ケンボナシ		
ウコギ科	キヅタ	タラノキ	ヒメウコギ
クスノキ科	シロダモ		
ニレ科	ケヤキ	エノキ	
モクセイ科	ヒイラギ	ネズミモチ	
ブドウ科	ツタ		
ウルシ科	ツタウルシ	ヤマウルシ	
モクセイ科	イボタノキ		
バラ科	ナワシロイチゴ	×ソメイヨシノ	
ミカン科	サンショウ		

政庁跡

ミカン科	キハダ	カラスザンショウ	
------	-----	----------	--

(2) 加瀬沼周辺の植物

バラ科	ズミ	コゴメウツギ	ウワミズザクラ
	ヤマブキ	モミジイチゴ	
ウコギ科	タラノキ	コシアブラ	ヤマウコギ
	ヤツデ	キヅタ	
リョウブ科	リョウブ		
モクレン科	ハウノキ		
スイカズラ科	ガマズミ	コバノガマズミ	ウグイスカグラ
	オトコヨウヅメ	スイカズラ	
ツツジ科	ヤマツツジ		
ハンノキ科	ハンノキ	ケヤマハンノキ	
ニシキギ科	マユミ	ツルマサキ	
ミズキ科	ミズキ	クマノミズキ	
クスノキ科	クロモジ	シロダモ	
マンサク科	マンサク		
シソ科	クサギ		
ミカン科	コクサギ	カラスザンショウ	
モチノキ科	イヌツゲ		
アワブキ科	アワブキ		
サカキ科	ヒサカキ		
キブシ科	キブシ		
サクラソウ科	ヤブコウジ		
ハイノキ科	サワフタギ		
アケビ科	アケビ	ミツバアケビ	

アジサイ科	ウツギ	バイカウツギ	エゾアジサイ
カエデ科	ウリハダカエデ		
ニガキ科	ニガキ		
ウルシ科	ツタウルシ	ヤマウルシ	
ブドウ科	ツタ	ノブドウ	
マツ科	モミ	アカマツ	
ミツバウツギ科	ミツバウツギ		
マメ科	フジ	キハギ	サイカチ
	クズ		
サルトリイバラ科	サルトリイバラ	ヤマガシユウ	
イネ科	ミヤコザサ	ヤダケ	ハチク
	モウソウチク		
ニレ科	エノキ		
クロウメモドキ科	クロウメモドキ		
クワ科	コウゾ		
ブナ科	クスギ	ミズナラ	
ツツラフジ科	アオツツラフジ		
ヤナギ科	ネコヤナギ	バッコヤナギ	
ヒノキ科	スギ	ヒノキ	

加瀬沼周辺の草本類

キク科	メタカラコウ	ノアザミ	×ハルジョオン
	×ヒメジョオン	×アカミミタンポポ	エゾタンポポ
	×セイヨウタンポポ	チチコグサ	ハハコグサ
	コオニタビラコ	オニタビラコ	ヤビタビラコ
	ジシバリ	オオジシバリ	×オニノゲシ
	ニガナ	ノゲシ	アキノノゲシ
	サワオニグルマ	×ブタクサ	オヤリハグマ
	ヤブタバコ	×オオブタクサ	×ダンドボロギク
	×ハキダメギク	タウコギ	×アメリカセンダング
	ハルノノゲシ	ヤクシソウ	アキノキリンソウ
	×キクイモ	×ブタナ	ヨモギ
	×ノボロギク	フキ	ノコンギク
	×ベニバナボロギク	×ヒメムカシヨモギ	×セイタカアワダチソ
	×オオオナモミ	メナモミ	
キキョウ科	ホタルブクロ		
ウリ科	キカラスウリ	スズメウリ	×アレチウリ
アカネ科	アカネ	×オオフタバムグラ	ヤエムグラ
オオバコ科	オオバコ	×ヘラオオバコ	
ゴマノハグサ科	アゼナ	ムラサキサギゴケ	トキワハゼ
	ムシクサ	×タチイヌノフグリ	×オオイヌノフグリ
ナス科	イヌホウズキ		
シソ科	キランソウ	カキドウシ	ウツボグサ
	ホトケノザ	ヒメオドリコソウ	ナギナタコウジュ
ムラサキ科	ハナイバナ	キュウリグサ	

ヒルガオ科	ヒルガオ		
ガガイモ科	ガガイモ	コバノカモメヅル	
サクラソウ科	オカトラノオ	コナスビ	
イチヤクソウ科	イチヤクソウ		
セリ科	セリ	チドメグサ	ノダケ
	ミツバ		
ウコギ科	ウド		
アカバナ科	ヒシ	×メマツヨイグサ	×マツヨイグサ
スマレ科	スマレ	シコロスマレ	マキノスマレ
	タチツボスマレ		
トウダイグサ科	エノキグサ		
カタバミ科	カタバミ	ミヤマカタバミ	
フクロソウ科	ゲンノショウコ		
マメ科	クララ	ヤハズソウ	メドハギ
	ヌスビトハギ	カラスノエンドウ	ナンテンハギ
	ノアズキ	ツルマメ	クズ
	コマツナギ	ミヤコグサ	ゲンゲ
	×アカツメグサ	×コメツブツメクサ	×シロツメクサ
	カワラケツメイ		
バラ科	ヘビイチゴ	キジムシロ	キンミズヒキ
	ヤブヘビイチゴ	ミツバツチグリ	ワレモコウ
アブラナ科	タネツケバナ	イヌガラシ	スカシタゴボウ
	ナズナ		
ケシ科	タケニグサ	クサノオウ	ムラサキケマン
メギ科	イカリソウ		
キンポウゲ科	キツネノボタン	センニンソウ	ニリンソウ
	カラマツソウ		
ナデシコ科	ツメクサ	ミミナグサ	
ヒユ科	×ホソアオゲイトウ	ヒナタイノコヅチ	
スベリヒユ科	スベリヒユ		
アカザ科	アカザ	シロザ	×ウラジロアカザ
ツルナ科	×ヨウシュヤマゴボウ		
タデ科	ギシギシ	エゾノギシギシ	スイバ
	×ヒメスイバ	ミズヒキ	ミチヤナギ
	イシミカワ	ミゾツバ	オオイヌタデ
	イヌタデ	ハルタデ	オオイタドリ
	イタドリ	×オオケタデ	
ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ	ウスバサイシン	
イラクサ科	アオミズ	ウワバミソウ	ラセイタソウ
クワ科	カラハナソウ	カナムグラ	
センリョウ科	ヒトリシズカ		
ドクダミ科	ドクダミ		
ラン科	ネジバナ	シュンラン	
アヤメ科	シャガ		
ヤマノイモ科	ヤマノイモ	ナガイモ	
	ショウジョウバカマ	ホトトギス	ノビル

ユリ科	ヤブラン	カタクリ	シオデ
	ウバユリ	ヤブカンゾウ	チゴユリ
	アマドコロ	ヤマユリ	マイズルソウ
ツユクサ科	ツユクサ		
サトイモ科	ウラシマソウ	マムシグサ	ショウブ
ガマ科	コガマ		
イグサ科	ホソイ	ホタルイ	スズメノヤリ
ミズアオイ科	コナギ		
カヤツリグサ科	ハリイ	ウシクグ	アブラガヤ
イネ科	アキノエノコロ	キンエノコロ	エノコログサ
	ムラサキエノコロ	イヌビエ	チカラシバ
	チジミザサ	カモガヤ	メヒシバ
	スズメノヒエ	アキメヒシバ	スズメノテッポウ
	スズメノカタビラ	カゼグサ	ヌカビキ
	ヨシ	オオアブラススキ	マコモ
	×ナギナタガヤ		
ホシクサ科	ヒロハイヌノヒゲ		

(3) 多賀城廃寺跡周辺の植物

ブナ科	コナラ	クリ	クヌギ
マツ科	アカマツ	モミ	
ニレ科	ケヤキ	エノキ	
カバノキ科	イヌシデ		
クスノキ科	シロダモ		
ミズキ科	ミズキ		
ツバキ科	ヤブツバキ		
マメ科	×ニセアカシヤ	フジ	マルバハギ
バラ科	コゴメウツギ	サルトリイバラ	モミジイチゴ
	ナワシロイチゴ		
スイカズラ科	ウグイスカグラ	スイカズラ	ニワトコ
	ガマズミ		
モチノキ科	イヌツゲ		
ニシキギ科	ツルマサキ	マユミ	コマユミ
ウコギ科	ヤツデ	キツタ	
サクラソウ科	ヤブコウジ		
アケビ科	アケビ	ミツバアケビ	
モチノキ科	ウメモドキ		
シソ科	ムラサキシキブ		
ウルシ科	ヤマウルシ		
エゴノキ科	エゴノキ		
ツツジ科	ヤマツツジ		
クワ科	ヤマグワ		
ブドウ科	ノブドウ		

人工林

ヒノキ科	スギ	ヒノキ	
バラ科	×ソメイヨシノ		

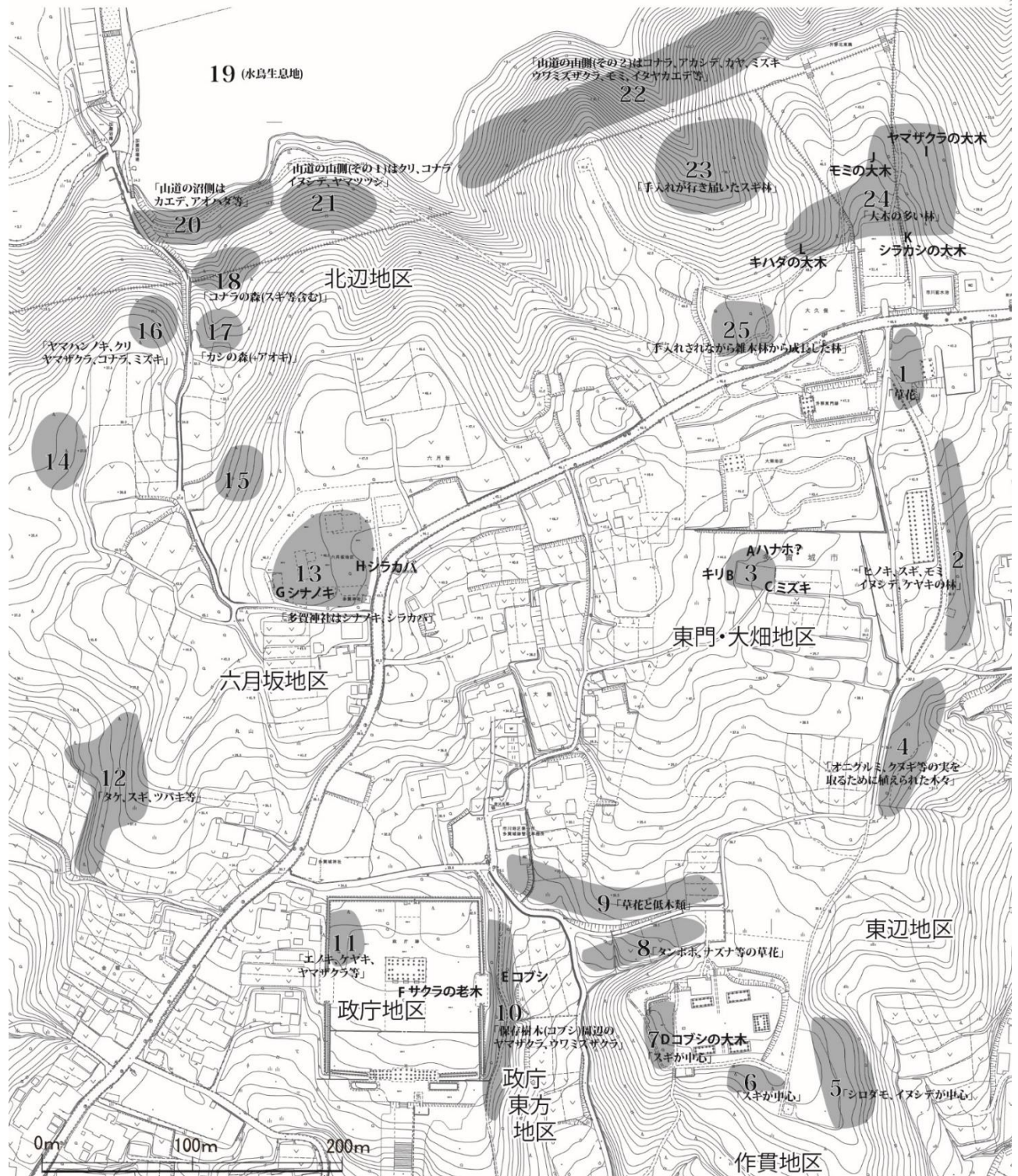
草本類

キク科	ヨモギ	×ベニバナボロギク	ヤクシソウ
	×ハルジョオン	×ヒメジョオン	
アカネ科	ヘクソカズラ		
ツツジ科	イチヤクソウ		
アカバナ科	×メマツヨイグサ		
キジカクシ科	コバギボウシ		
バラ科	キンミズヒキ	ヤブヘビイチゴ	ワレモコウ
タデ科	ミズヒキ	イヌタデ	×ヒメスイバ
	×エゾノギシギシ	スイバ	
	ギシギシ	イタドリ	
ヤマノイモ科	ヤマノイモ		
イネ科	スズメノカタビラ	チジミザサ	チカラシバ
	カゼクサ	スズメノテッポウ	ススキ
	アズマネザサ		
セリ科	セリ	ミツバ	ノダケ
ヒユ科	イノコヅチ		
オオバコ科	オオバコ		
キンポウゲ科	センニンソウ		
マメ科	×シロツメクサ	×アカツメクサ	
シソ科	×ヒメオドリコソウ		
ゴマノハグサ科	×オオイヌノフグリ	×タチイヌノフグリ	
トクサ科	スギナ		

3. 多賀城跡の主な緑地マップと主要樹種の分布

『史都の木々たち「多賀城・樹木図鑑」～松島湾周辺里山の樹木誌～』

西口親雄・多賀城市建設部都市整備課 1998 を改変)



- | | |
|--|--|
| 1 オオイヌノフグリ・ヒメオドリコソウ | 14 クズ |
| 2 モミ・ウワミズザクラ・シロダモ・ヤブツバキ・ミヤコザサ・イタヤカエデ
コハウチワカエデ・ケヤキ | 15 クリ・オニグルミ・ウワミズザクラ |
| 3 ハナホ?キリ・ミズキ | 16 アオキ・ヤマハンノキ・カタクリ・クリ・ヤマザクラ・コナラ・ミズキ |
| 4 オニグルミ・オオウバユリ・ヤマザクラ・クスギ | 17 カシ・アオキ |
| 5 アカガシ・シロダモ・イヌシデ・モミ・ヤマザクラ・アオキ・アスナロ | 18 キイチゴ・ジュウモンジシダ・コクサギ・ヤマウルシ・ヤマボウシ
カエデ・アオハダ |
| 6 スギ・ハコベ・クサノオウ | 21 ヤマネコヤナギ・ホノノキ・ウリハダカエデ・イヌシデ・アカシデ
クリ・コナラ・ヤマツツジ |
| 7 スギ・キハダ・ヒサカキ・オオウバユリ | 22 ショウジョウバカマ・カタクリ・コナラ・アカシデ・カヤ・ミズキ
ウワミズザクラ・モミ・イタヤカエデ |
| 8 タンポポ・ナズナ・ノボロギク | 23 スギ林 |
| 9 カヤ | 24 ヤマザクラ・モミ・ウリハダカエデ・クリ・コナラ・シラカシ・キハダ |
| 10 コブシ・ヤマザクラ・ウワミズザクラ・ムグラ類・クリ | 25 ケヤキ・クリ・コナラ・ミズキ・イヌシデ・エゴノキ・イヌガヤ・イタヤカエデ |
| 11 サクラ・エノキ・クスギ・ケヤキ | |
| 12 モウソウダケ・スギ・ツバキ | |
| 13 シナノキ・シラカバ | |

4. 万葉集の植物

奈良時代に編纂された万葉集には多くの植物が歌の中に詠み込まれており、その数は160種類余りともいわれている。古代多賀城の植生の再現を基本方針とする当計画の実施にあたり、参考資料として万葉集に詠われた植物を、当地域に生息するものを中心として以下に記す。行頭には「花」「実」、木本類については「紅葉」の欄を設けて景観として優良なものを示した。また、木本類については「鳥虫獣餌」、草本類については「有用」（食用・素材利用等）の欄を設けて環境や生活・文化との関わりについても考慮できるようにした。

参考文献：『萬葉植物事典』大貫茂2005, 『日本の樹木』林弥栄編1996, 『日本の野草』林弥栄編1993
『緑化樹木ガイドブック』（財）日本緑化センター・（社）日本植木協会編ほか

- 万葉名欄 無印 万葉名と現代名の対応が明確なもの
 ◎ 他に現代名の候補はあるが一番可能性が高いもの
 (◎) 複数一番可能性の高い現代名があるもの
 ○ 他に可能性の高い現代名があるもの

(1) 木本類

花	実	紅葉	鳥虫獣餌	現代名	万葉名	針葉樹	常緑広葉樹		落葉広葉樹		つる性	多賀城周辺の有無	特徴	分布・原産地
							高木	低木	高木	低木				
				アオギリ	ごとう				○			×		関東以西 亜熱帯原産
				アオツラフジ	つづら							○	落葉つる性 雌雄異株	
			○	アカメガシワ	ひさぎ ○あづさ ○みつながしは				○				雌雄異株 夏 黄色花(小) 黒色種実 紅葉黄色	
				アキニレ	つき				○			×		東海以西
			○	アジサイ	あぢさゐ					○			ガクアジサイなど多種あり セイヨウアジサイは日本原産	
			○	アセビ	あしび			○						
	○	○	○	アブラチャン	○やまじさ					○			雌雄異株 葉の展開の前に黄色花 多肉果 紅葉黄色	
				イチイガシ	いちひ		○					×		関東以西
				イチジク	○ちち			○				×	江戸時代に渡来	
			○	イチヨウ	◎ちち (○)			○				?	渡来時期不確定 一説には室町時代 裸子植物	中国原産
				イヌガシ	○つまま			○				×		関東以西
			○	イヌツゲ	○つまま			○					雌雄異株 黒色果実	
				イヌビワ	○ちち				○			×		関東以西
				イブキ	○かしは ○かへ		○						雌雄異株 梨の病害(赤星病)の宿主になるので注意	
	○			ウツギ	うのはな					○			初夏 白色花	
	○			ウメ	うめ				○				春 紅色花	
	○		○	エゴノキ	◎ちさ ○いちし ○やまじさ								初夏 白色花	
	○	○	○	エノキ	え				○				赤褐色果実 食用	
		○	○	カエデ	かへるで				○				鳥が樹液を好む	
				カキノキダマン	○やまぢさ				○			×	別名チシヤノキ	中国地方以西
				カクレミノ	◎みつながしは		○					×		関東以西
				カシ	かし		○						ブナ科コナラ属常緑高木の総称	
	○			カジノキ	○たへ				○				雌雄異株 橙赤色果実 食用 樹皮繊維を紙の材料に利用	
		○		カシワ	◎かしは ○ははそ				○				紅葉赤～黄色	
		○		カツラ	かつら				○				雌雄異株 新葉・紅葉黄色美しい 落葉の芳香も良好	
				カヤ	かや		○						雌雄異株 堅果食用	
	○	○	○	カラタチ	からたち					○			鋭い棘 ミカン科 アゲハチョウの食葉	中国原産
				キササゲ	○あづさ				○				初夏 黄白色花 線状の細長い果実	中国原産
				キシウミカン	○あべたちばな ○たちばな		○						?	
				ギョリュウ	○むろのき				○				?	室町時代伝来
	○			キリ	きり ◎ごとう								初夏 紫色花	中国原産
	○	○		クサイチゴ	○いちし					○			春 白色花	
	○		○	クヌギ	つるばみ ○ははそ					○			ドングリ カブトムシ・クワガタ 紅葉黄褐色	
				クネボ	○あべたちばな				○			×	柑橘類	東南アジア原産
	○	○	○	クリ	くり				○					
	○		○	クワ	くは				○				ヤマグワ 雌雄異株 赤色実	
		○		ケヤキ	◎つき				○					
	○			クワソ	たく たへ ゆふ					○			雌雄異株 橙赤色果実 食用 樹皮繊維を紙の材料に利用	
			○	コナラ	◎たまばはき こなら ◎ははそ ○かしは ○なら				○					関東以西
				コノテガシワ	◎このてがしは ○かしは ○かへ		○						?	江戸時代伝来
				コバノミツバツツジ	○しらつつじ					○			×	中国原産
				コベニミカン	◎あべたちばな					○			?	中部地方以西
				コミカン	○たちばな					○			?	暖地
	○			ゴヨウツツジ	○しらつつじ				○				キシウミカンの別称?	
				サイカチ	○かはらふじ				○				初夏 白花 別名シロヤシオ	
				サカキ	さかき		○					×	幹や枝に棘 ねじ曲った大きな豆果	関東以西
○		○		サクラ	さくら				○				春 薄桃色花	

花	実	紅葉	鳥虫 獣餌	現代名	万葉名	針 葉 樹	常緑 広葉樹		落葉 広葉樹		つ る 性	多 賀 城 周 辺 の 有 無	特 徴	分 布 ・ 原 産 地		
							高 木	低 木	高 木	低 木						
				ザクロ	○はねず				○			?	平安時代伝来	中東原産		
○				サツキ	○つつじ				○				初夏 朱赤色花			
				サネカズラ	さなかづら ○ところづら						○	×	常緑つる性	関東以西		
				サラ	さふじゅ			○					×	沙羅双樹	インド・東南アジア	
				シイノキ	しひ			○					×	ブナ科シイ属の総称 ツブラジイ・スダジイ	関東・福島以西	
				シキミ	しきみ			○					×		関東以西	
○				ジャケツイバラ	◎かはらふじ						○			落葉つる性 春 黄色花 マメ科	宮城以南	
				シラカシ	しらかし			○						ドングリ	宮城県北限	
				シロダモ	○つまま			○						宮城北限 雌雄異株 秋 黄褐色花 赤色実		
				ジンチョウゲ	○さきくさ				○				?	室町時代伝来	中国南部原産	
				スギ	すぎ			○								
	○		○	スモモ	すもも					○				果実	中国原産	
				センダン	あふち				○				×		伊豆半島以西	
				ダイダイ	○あべたちばな			○					?	柑橘類	インド・ヒマラヤ原産	
				タチバナ	◎たちばな				○					×	静岡以西	
				タブノキ	◎つまま			○					?	黒い実		
		○		タラノメ	○な				○					若芽が食用		
				チシャノキ	○ちさ				○				×		中国地方以西	
○				チョウジザクラ	かには				○					春 白色花		
				ツガ	つがのき			○					×		福島以南	
				ツゲ	つげ				○				×		関東以西	
○				ツツジ	◎つつじ 白花：◎シラツツジ				○							
○				テイカカズラ	◎つな ◎つた						○			常緑つる性 初夏 白色花 芳香		
				トネリコ	○つき				○					雌雄異株 春 白色花 バットの材料		
	○		○	ナシ	なし				○					果実 自生はヤッケ		
				ナツツタ	○つた ○つな						○			落葉つる性		
	○		○	ナツメ	なつめ ○むろのき				○					赤色実	中国原産	
	○		○	ナラ	◎なら				○					ブナ科コナラ属落葉性広葉樹の総称 ドングリ		
	○		○	ナラガシワ	◎ははそ				○					ドングリ		
				ニッポンタチバナ	○あべたちばな				○					×	静岡県以西	
				ニレ	もむれに				○						ニレ科ニレ属の総称 ハルニレ アキニレ	
○	○			ニワウメ	◎はねず				○					早春 桃色花 種実食可 江戸時代伝来?	中国原産	
○				ニワザクラ	◎はねず				○					春 桃色・白色花	中国原産	
	○		○	ニワトコ	やまたづ				○					春 白色小花 赤色実		
		○		ヌルデ	かづのき				○					紅葉赤～黄色		
○				ネコヤナギ	かはやなぎ				○					雌雄異株 春 白色花穂		
○				ネズ	◎むろのき				○					雌雄異株 成長が非常に遅い		
○				ネムノキ	ねぶ				○					夏 淡紅色花		
○			○	ノイバラ	うまら				○					初夏 白色花 直立するがツル性の性質も有り 赤色果実		
	○		○	ノグワ	○つみ				○					クワ・ヤマグワの別称 赤色果実		
○				ハギ	はぎ ○はり				○					マメ科ハギ属の総称 赤紫色花		
				ハゼノキ	○はじ				○				×		関東以西	
				ハルニレ	○つき				○					巨木となる		
	○			ハンノキ	◎はり				○					雌雄異花 毬果状花穂		
				ヒノキ	ひ ○かへ				○							
○				フジ	ふぢ						○			落葉つる性		
				フユイチゴ	○みつながしは				○					×	関東以西	
				フヨウ	◎はねず						○			×	四国以南 中国原産	
○				ホオノキ	ほほかしは				○					落葉樹最大の白色花と葉 芳香		
				マキ	まき			○						×	関東以西	
				マツ	まつ ○つまま			○								
		○	○	マユミ	まゆみ ○あづさ				○					雌雄異株 (同説有り) 赤色紅葉 赤色実 野鳥食餌木		
	○	○		ミスメ	あづさ				○					別名アズサ・ヨグソミネバリ 紅葉黄色 房状果穂 (毬果)		
				ミツバツツジ	○つつじ					○				×	関東以西	
				ミツマタ	◎さきくさ				○					×	渡来時期不確定 一説には江戸時代	関東以西 中国原産
○				ムクゲ	○あさがお ○かほばな				○					希少な夏花 平安時代以前に渡来	中国原産	
○				モクレン	◎はねず				○					平安時代以前に渡来	中国原産	
				モミ	おもみ ○むろのき			○						日本特産		
○	○		○	モモ	もも				○					奈良時代以前に渡来	中国北部原産	
			○	ヤドリギ	ほよ				○					ケヤキ・エノキなどに寄生 黄色果実 野鳥食餌木		
				ヤナギ	やなぎ				○						ヤナギ科の総称 雌雄異株	
	○			ヤブコウジ	やまたちばな				○					赤色実 木陰に群生		
○			○	ヤブツバキ	つばき				○					早春 赤色花 野鳥食餌木 (蜜)		
		○		ヤマウルシ	◎はじ				○					赤色紅葉 毒		
○	○		○	ヤマナシ	◎はねず									春 白色花 果実		
				ヤマハゼ	◎はじ				○				×		関東以西	
○				ヤマブキ	やまぶき				○					春 黄色花		
○	○		○	ヤマボウシ	◎つみ				○					初夏 白色花 赤色果実食可 紅葉赤色		
				ユズリハ	ゆづるは				○					×	福島以南	

(2) タケ類

				シノダケ	しの									桿が細く群生するタケササの通称	
--	--	--	--	------	----	--	--	--	--	--	--	--	--	-----------------	--

(3) 草本類

花	実	有用	現代名	万葉名	一年生	多年生	ツル性	湿地性	多賀城周辺での有無	特徴	分布
◎○推奨											
		○	アカネ	あかね		○	○			アカネ科	
			アカモク	○なのりそ					×	ホンダワラ科 海藻	
		○	アサ	あさ		○				クワ科 栽培不可	
○			アサガオ	○あさがお	○		○			ヒルガオ科	熱帯アジア原産
○			アサザ	あざさ		○	○			ミツガシワ(リンドウ)科 水草 夏 黄色花	
		○	アシ	あし		○	○			イネ科	
○			アマドコロ	○ところづら ○にこぐさ		○				キジカクシ科 春 垂下白色花	
			アミガサユリ	はは		○			?	ユリ科 江戸時代に渡来?	中国原産
		○	アワ	あは		○				イネ科	
		○	イ	○いはみづら		○				イグサ科	
○			イカリソウ	○さきくさ		○				メギ科 春 白色薄紅色花	
			イタドリ	○いちし		○				タデ科	
			イヌビエ	ひえ		○				イネ科	
		○	イネ	いね		○				イネ科	
○			イワタバコ	やまぢさ		○				イワタバコ科 初夏 紅紫色花 湿った岩場	
			エグ	○ゑぐ		○				セリ科 セリの別名?	
○			エンレイソウ	○つちはり		○				シュロンウ科 春 白色・紫色花	
			オギ	をぎ		○	○			イネ科	
○			オキナグサ	◎ねつこぐさ		○				キンボウゲ科 春～初夏 紅紫色花	
		○	オケラ	うけら		○				キク科	
			オニトコロ	◎ところづら		○	○			ヤマノイモ科 別名トコロ	
○			オミナエシ	をみなえし ○おもひぐさ ○このてがしは		○				オミナエシ科 晩夏～秋 黄色花	
○			オモダカ	かほばな なぎ		○	○			オモダカ科 夏～秋 白色花	
○			カキツバタ	かきつばた ○かほばな		○	○			アヤメ科 初夏 紫色花	
			カサスゲ	○すが ○すげ		○	○			カヤツリグサ科	
◎	○		カタクリ	かたかご		○				ユリ科 春 紅紫色花	
			カナムグラ	むぐら		○	○			クワ科	
		○	カブ	あをな		○				アブラナ科	中国原産
		○	カラムシ	むし		○				イラクサ科	
○			カンアオイ	○あふひ		○				ウマノスズクサ科 ギフチョウの食草	
◎			キキョウ	◎あさがお						キキョウ科 夏～秋花 青紫色花	
			ギシギシ	○いちし		○				タデ科	
		○	キビ	きみ		○				イネ科	インド原産
			クサネム	○たまばはき		○				マメ科	
		○	クズ	くず		○	○			マメ科	
			クログワイ	◎ゑぐ		○	○	×		カヤツリグサ科	関東以西
		○	クワイ	○ゑぐ		○	○			オモダカ科 水草	中国原産
◎			ケイトウ	◎からある		○				ヒユ科 夏～秋 赤色花	インド原産
◎			ケンゲ	○つちはり		○				マメ科 別名レンゲソウ 春 紫色花	中国原産
			コウボウムギ	○ねつこぐさ						カヤツリグサ科 別名フデクサ	
			コナギ	◎なぎ		○		○		ミズアオイ科 水草	
			ササ	ささ						イネ科	
		○	サトイモ	うも						サトイモ科	熱帯アジア原産
			サワヒヨドリ	◎さはあらざ		○				キク科	
			サンカクイ	しりくさ ○たはみづら		○	○			カヤツリグサ科	
○			シオン	○おもひぐさ		○				キク科 秋 薄紫色花	
		○	ジャノヒゲ	○やますげ		○				ユリ科 常緑	
		○	ジュンサイ	ぬばな ○いはみづら ○たはみづら			○			スイレン科 水草	
◎			シュンラン	らに		○				ラン科 春 淡紅紫色花 常緑	
			ショウブ	あやめぐさ		○	○			サトイモ科	
			シラスゲ	○すが ○すげ		○				カヤツリグサ科	
◎			シラン	けい		○				ラン科	
			ススキ	すすき をばな ○おもひぐさ		○				イネ科	
			スベリヒユ	◎いはみづら		○				スベリヒユ科	
◎			スマレ	すみれ		○				スマレ科	
		○	セリ	せり		○				セリ科	
			ダイオウ	○いちし		○				タデ科	
○			タチアオイ	○あふひ		○				アオイ科 夏 薄紫色	
			タデ	たで		○				タデ科	
○			チガヤ	あさぢ ちばな つばな		○				イネ科 5～6月銀色花穂	
			チカラシバ	しば		○				イネ科 5～6月銀色花穂	
			ツクバネソウ	○つちはり		○				シュロンウ科	
○			ツボスミレ	つぼすみれ		○				スミレ科 春 薄紫色花	
○			ツククサ	つきくさ ○おもひぐさ ○からある ○ももよぐさ		○				ツククサ科	

花	実	有用	現代名	万葉名	一年生	多年生	ツル性	湿地性	多賀城周での有無	特徴	分布
○			ツリガネニンジン	○さきくさ		○				キキョウ科 夏～秋花 青紫色花	
			ツルマメ	○まめ	○		○			マメ科	
			ツルモ	○たはみづら					×	ツルモ科 海藻	
			トチカガミ	○なぎ		○	○			トチカガミ科	
◎			ナデシコ	なでしこ		○				ナデシコ科 夏～秋 淡紅色花	
○			ナンバンギセル	◎おもひぐさ	○					ハマウツボ科 夏～秋 淡紅色花	
		○	ニラ	みら		○				ユリ科	
○			ネジバナ	○ねつこぐさ		○				ラン科	
○			ノギク	◎ももよぐさ		○				キク科 秋 白色花	
			ノジギク	○ももよぐさ		○			×	キク科 秋 白色花	関東以西
○			ノハナショウブ	◎はなかつみ		○	○			アヤメ科 初夏 赤紫色花	
		○	ノビル	ひる		○				ユリ科	
○	◎		ハス	はちす		○	○			スイレン科 夏 淡紅色花	インド原産
			ハマオモト	はまゆふ		○			×	ヒガンバナ科	関東以西
○			ハマヒルガオ	(◎)かほばな		○	○			ヒルガオ科 5月 紅紫色花	
		○	ヒエ	ひえ		○				イネ科	
○	◎		ヒオウギ	ぬばたま		○				アヤメ科 黒色実	
◎			ヒガンバナ	◎いちし		○				ヒガンバナ科 秋 赤花	
		○	ヒシ	ひし	○		○			ヒシ科	
			ヒツジグサ	○たはみづら			○			スイレン科	
○			ヒトリシズカ	○つぎね		○				センリョウ科 春 白色花	
			ヒメクズ	○まめ		○	○			マメ科 別名ノアズキ	
○			ヒメシャガ	○はなかつみ		○				アヤメ科 初夏 薄紫色花	
○			ヒメユリ	ひめゆり		○			×	ユリ科	関西以西
○			ヒルガオ	(◎)かほばな ○あさがお		○	○			ヒルガオ科 夏 紅紫色花	
			ヒルムシロ	◎たはみづら		○	○			ヒルムシロ科	
		○	フキ	○な		○				キク科 フキノトウ	
○			フジバカマ	ふぢばかま ○さはあららぎ		○				キク科 晩夏～秋 淡紅紫色花	
○			フタバアオイ	○あふひ		○				ウマノスズクサ科	
○			フタリシズカ	◎つぎね		○				センリョウ科 春 白色花	
			フトイ	おほめぐさ		○	○			カヤツリグサ科	
○			フユアオイ	◎あふひ	○					アオイ科 春～秋 淡紅色	大陸原産
○			ヘクソカヅラ	くそかづら		○	○			アカネ科	
◎	○		ベニバナ	からあゐ くれなゐ	○					キク科	エジプト原産
			ホウキギ	○たまばはき	○					ヒユ科 別名ホウキグサ (コキア:とんぶり)	西～中央アジア原産
			ホンダワラ	◎なのりそ					×	ホンダワラ科 海藻	
		○	マクワウリ	うり	○					ウリ科	インド原産
			マコモ	こも ○はなかつみ		○	○			イネ科	
			ミクリ	○たはみづら		○	○			ミクリ科	
			ミズアオイ	○なぎ	○		○			ミズアオイ科 水草	
			ミズハコベ	○いはみづら		○	○			オオバコ科 水草	
			ミル	みる					×	ミル科 海藻	
			ムカシヨモギ	○ももよぐさ		○				キク科	
		○	ムギ	むぎ	○					イネ科	
		○	ムラサキ	むらさき		○				ムラサキ科 根が染料に	
			メドハギ	○たまばはき		○				マメ科	
			メハジキ	◎つちはり	○					シソ科	
			ヤハズソウ	○たまばはき	○					マメ科	
○			ヤブカンゾウ	わすれぐさ		○				ユリ科 夏 橙色花	
			ヤブマメ	◎まめ	○		○			マメ科	
			ヤブラン	○やますげ		○				ユリ科 常緑	
			ヤマアイ	やまあゐ		○				トウダイグサ科 染色材	
○			ヤマユリ	○さきくさ		○				ユリ科	
○			ユリ	ゆり		○				ユリ科 初夏～夏 白色花	
○			ヨメナ	うはぎ		○				キク科	
		○	ヨモギ	よもぎ ○ももよぐさ		○				キク科	
○			リンドウ	○おもひぐさ ○ももよぐさ		○				リンドウ科 秋 青紫色花	
			ワカメ	わかめ					×	コンブ科 海藻	
	○		ワタ	わた		○				アオイ科	インド・エジプト原産

(4) シダ・コケ類、菌類

			オオタニワタリ	○みつながしは						チャセンシダ科 シダ類	
			デンジソウ	○はなかつみ				○		デンジソウ科 シダ類	
			ノキシノブ	しだくさ						ウラボシ科 シダ類	
			ハコネシダ	◎にくぐさ						ホウライシダ科 シダ類	
			ヒカゲノカズラ	ひかげ						ヒカゲノカズラ科 シダ類	
		○	マツタケ	あきのか						キシメジ科 菌類	
		○	ワラビ	わらび ○な						コバノイシガマ科 シダ類	

特別史跡多賀城跡附寺跡緑化修景基本方針(案)

令和元年7月1日発行

編集・発行 宮城県多賀城跡調査研究所
宮城県多賀城市高崎 1-22-1
TEL 022 (368) 0102